

目的

デジタルの力と「人にやさしい」・「共助型社会」・「子ども中心設計」の3つの視点で地域課題解決を推進

1. 「住民参加」と「地域コミュニティ」、
2. 「環境エネルギー」と「地域振興」、
3. 「防災」と「見える化」と年度毎のテーマ設定を行い、まちのスマート化に取り組む。

【推進体制】<構成予定メンバー>
 産：狛江スマートシティ・リビングラボ(新規)
 官：東京都狛江市
 民：CivicTechコミュニティ(新規)
 他：デジ田TYPE2産官学コンソーシアム

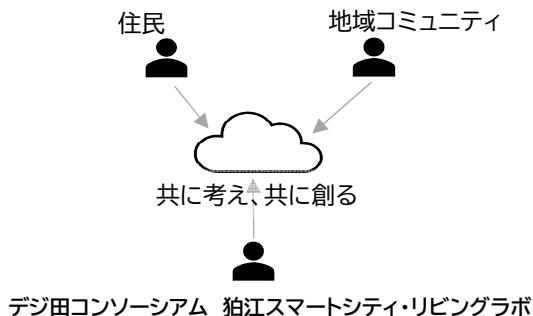
概要

2023年 地域コミュニティの活性化

コミュニティ参加促進と活性化

▶ 少子高齢化により地域コミュニティのつながりや交流が減少。スマートシティ推進の透明性や住民参加を促す「スマートシティ・リビングラボシステム」を導入し、住民のアイデア提案と意見共有を促進し、透明性と信頼性を向上させ、住民参加型のスマートシティ推進を推進する

スマートシティ・リビングラボシステム



2024年 カーボンニュートラル実現に向けた対応

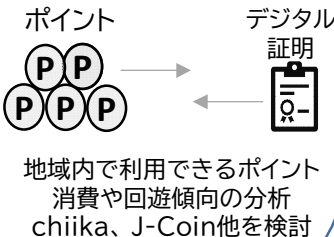
市民向けの情報提供の仕組みを整備

▶ 狛江市は令和3年4月にゼロカーボンシティを宣言した。豊かな環境を未来につなぐまちを実現するため、さまざまな環境関連のデータを客観的に把握する仕組みや市民向けの情報提供の仕組みとして「環境データダッシュボード」を構築する。
 また、施策の活用や地域振興策として庁内のポイント事業を「地域コミュニティポイント」として整備する。

環境データダッシュボード



地域コミュニティポイント

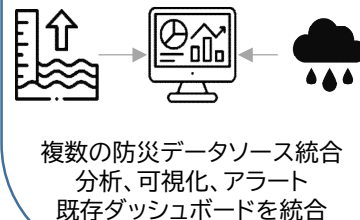


2025年 市民に対して分かりやすい防災情報の提供

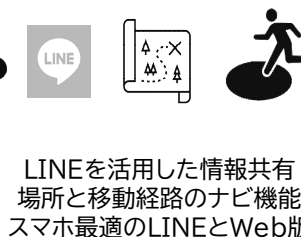
首都直下型地震に備えた防災・減災対策

▶ 狛江市では、昭和49年に多摩川水害が発生し、令和元年東日本台風では内水氾濫が発生しており、首都直下型地震の備えとともに防災・減災対策の強化に取り組んでいる。
 市民に分かりやすい防災情報や適切な避難情報を提供していくため、「データダッシュボード・見える化ポータル」、「スマホ防災情報流通システム」を整備する。

データダッシュボード 見える化ポータル



スマホ防災情報流通



デジタルの力で、「人にやさしいまち」の実現